

國民修身書

尋常小  
學校用

卷二

1  
4  
357

檢定合格本

K120.1  
83a  
2

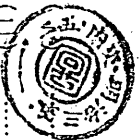
株式  
會社  
國光社  
編纂

# 國民修身書

東京  
株式會社  
國光社

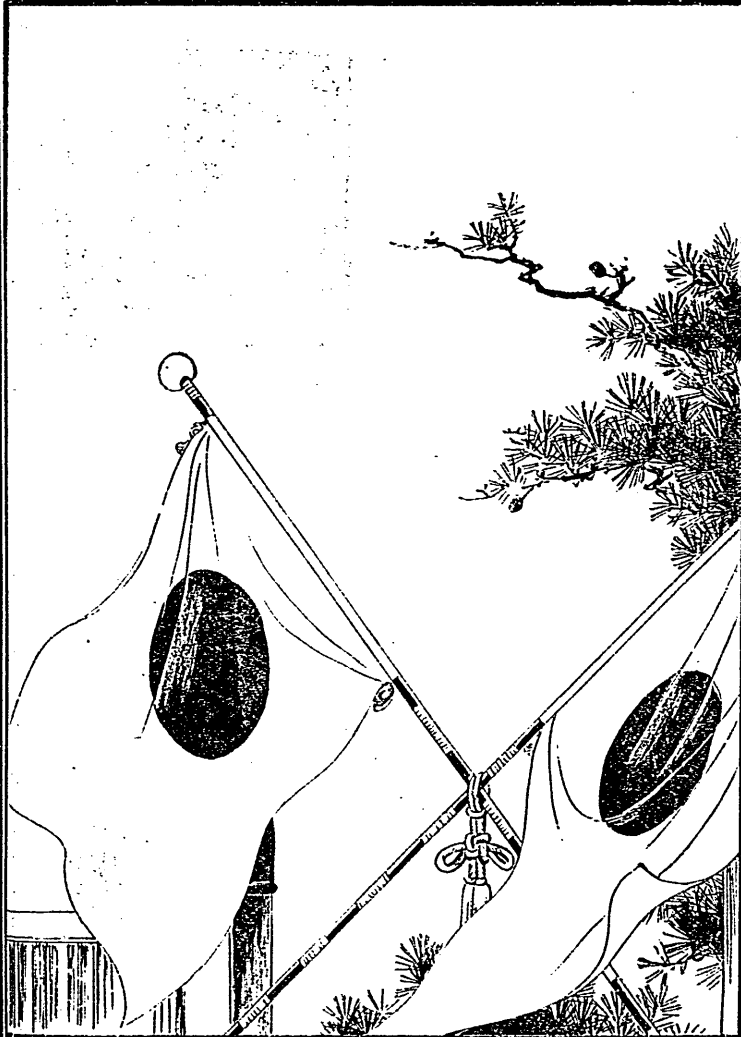
國民修身書 常用小卷 二十目次

だい一	ひのまるのはた	だい十四
だい二	おのづかのあはれ	だい十五
だい三	おのづかのあはれ	だい十六
だい四	おのづかのあはれ	だい十七
だい五	おのづかのあはれ	だい十八
だい六	おのづかのあはれ	だい十九
だい七	おのづかのあはれ	だい二十
だい八	おのづかのあはれ	だい二十一
だい九	おのづかのあはれ	だい二十二
だい十	おのづかのあはれ	だい二十三
だい十一	おのづかのあはれ	だい二十四
だい十二	おのづかのあはれ	だい二十五
だい十三	おのづかのあはれ	



だい六	犬としか	だい十九	こぶすめ(一)	三
だい七	はへとち	だい二十	こぶすめ(二)	三
だい八	一ろーのわび	だい二十一	こぶすめ(三)	三
だい九	つる	だい二十二	こぶすめ(四)	三
だい十	まつだひらよしよさ(一)	だい二十三	小川たけさん	三
だい十一	まつだひらよしよさ(二)	だい二十四	大江山(一)	三
だい十二	ひやくしよとつばめ	だい二十五	大江山(二)	三
だい十三			大江山(三)	三

たはのるまのひ ーいだ



あさひに

かぐやく

ひのまるのはた。

国文学研究資料館蔵  
三川 孝  
川

二いだ 大にぬしのみのこみと



大くにぬしのみことはおと  
なしいお方でありました。  
おもにをおうて、あに  
うつたちのおともを  
なされました。

三 だいたくのぬののみにと 三



國史作真言 卷二

六

白うさぎがわにに  
かはをはがれてはま  
づでくるしみました。  
ミカラデタサビ。

國史作真言 卷二 尋常科 十

⑤ だいたくぬしのみのとご



白うさぎがないてお  
ました。大くにぬしのみ  
ことがかはいさうにおもっ  
てたすけておやりなされ  
ました。

④ 大にぬしのみこと 五いだ



大にぬしのみことは、  
いろくのなんぎを  
しのいでつひにこのく  
にのつかさとなられ  
ました。

⑤ だいたくぬしのみのとこ 六



だくぬしのみのことはす  
くなひこなのみこととち  
からをあはせてともによこ  
のくにをつくられました。

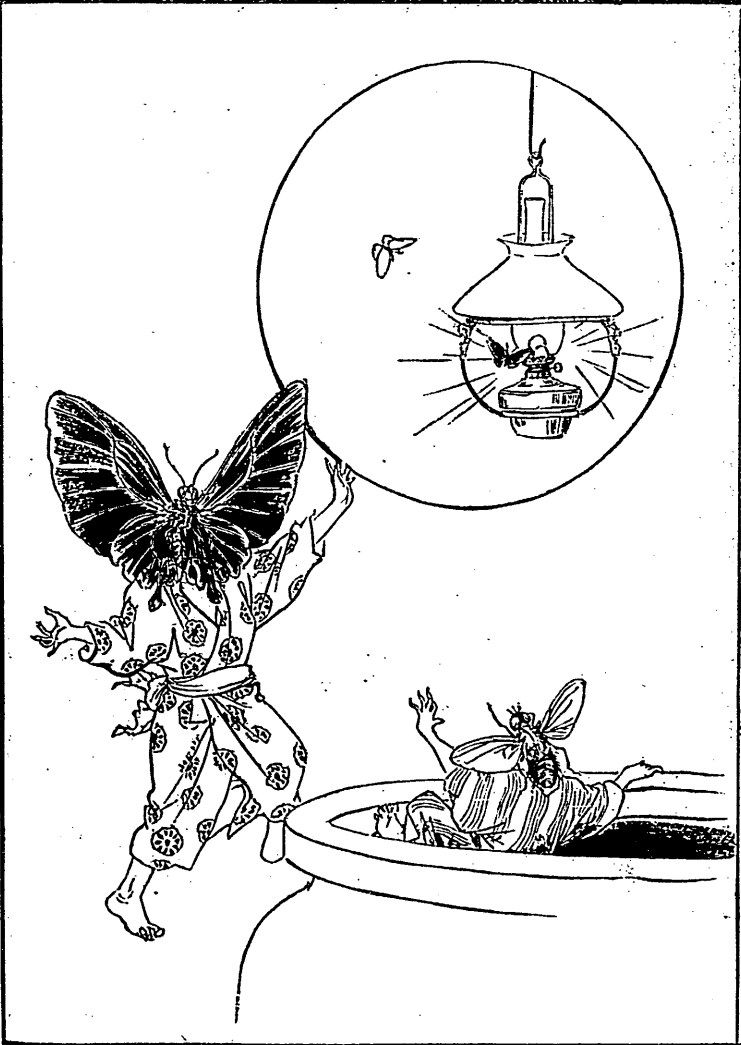


か し と 犬 七 い だ



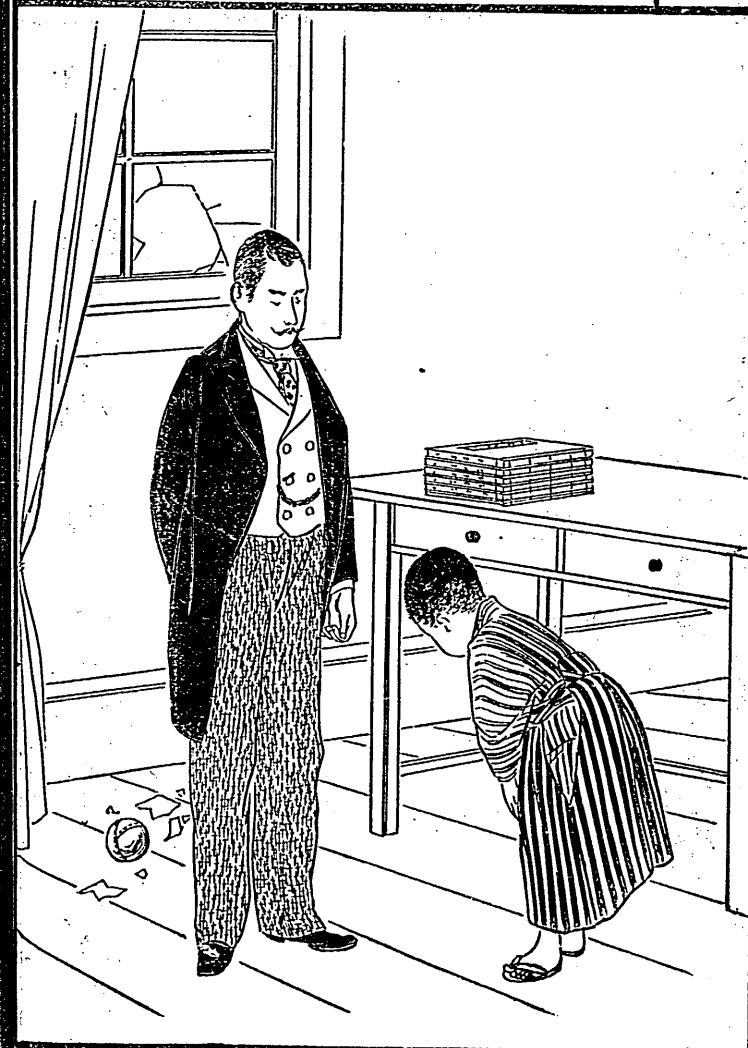
犬がしかにむかって、  
からだのとほりに心  
もりっぱになくては  
ならぬといひました。

しよちとへは 八いだ



はつがみつのなかにおち  
ておたらちよーくが、そ  
れをみて、わらひました。  
そのばんに、ちよーくは、  
ともしびでやけしにました。  
人ノフリミテ、ワガフリナホセ。

りわとこの一ろー 九いだ



一ろーがあやまって、ま  
どのがらすをこはし  
ました。  
いま、せんせいにごとあり  
をいうてをります。

だいたつる



つるは、急を、はら一ぱい  
にはたづませぬ。

又、急をたづたのちには、  
うんどーをいたします。

一ニ、ヨージョーニニクスリ。

國語辞書 卷二 鳥類科 三

三 さふしよらひだつま 一十いだ



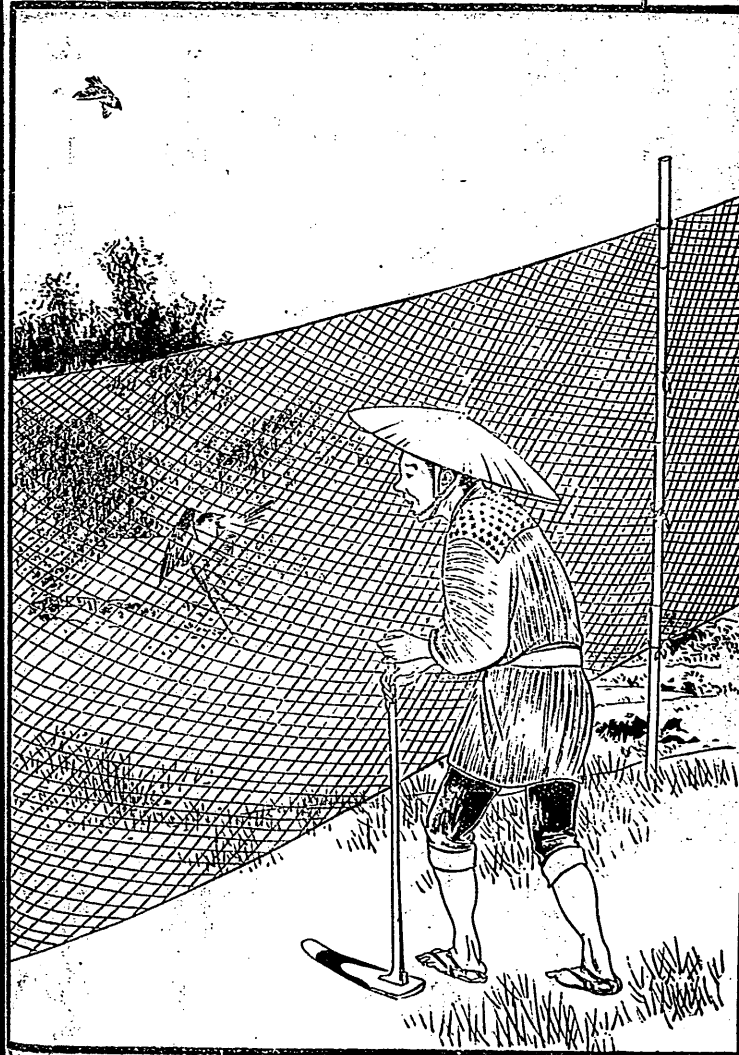
まつだひらよしふさは、小さいと  
きから、大そーぎ、よーぎがよくて、  
父母に、こーこーな人でありました。  
よしふさは、父母がしんはいなさ  
らぬために、いつもよーじよーを  
いたしました。

三 さふしよらひだつま 二十いだ



よしふさは、よそから、ものを  
もらへば、まづ、父母のまへにさ  
しだしました。  
また、父母から、ものをいたげ  
ば、めづらしくなくても、大そー  
よろこびました。

めばつとしゃひ 三十いた



つばめがひやくしよーにとら  
へられたとき、『わたくしはい  
ねはたぐぬ』といひました。  
それにつばめは一しよーにお  
たすぐめとともに、ころされ  
ました。

トモヲエラビテマジハレヨ。



むかし、花子といふむすめは、  
くびにこぶがあつたゆゑ、  
人がこぶむすめといひました。  
花子は、大それた父母にこゝこゝ  
なものでありました。



③ めすむぶこ 五十いだ



花子はどんな目でも、やす  
まずにけいこにゆきよく、  
ぶんきょーしました。

花子は、大そー、ともだちに  
しんせつてありました。

③ めすむぶこ 六十いだ



花子は、母のいひつけで、くは  
のはを、とっておました。  
そのとき、とのさまのおとほ  
りがありました。  
花子は、それをみずにく  
はのはを、とってをりました。

四 だいで七 ぶこむすめ



花子はとのさまにめされて  
ごてんにあがりました。  
花子の母もめしよせられ  
てごてんちかくにうつり  
ました。

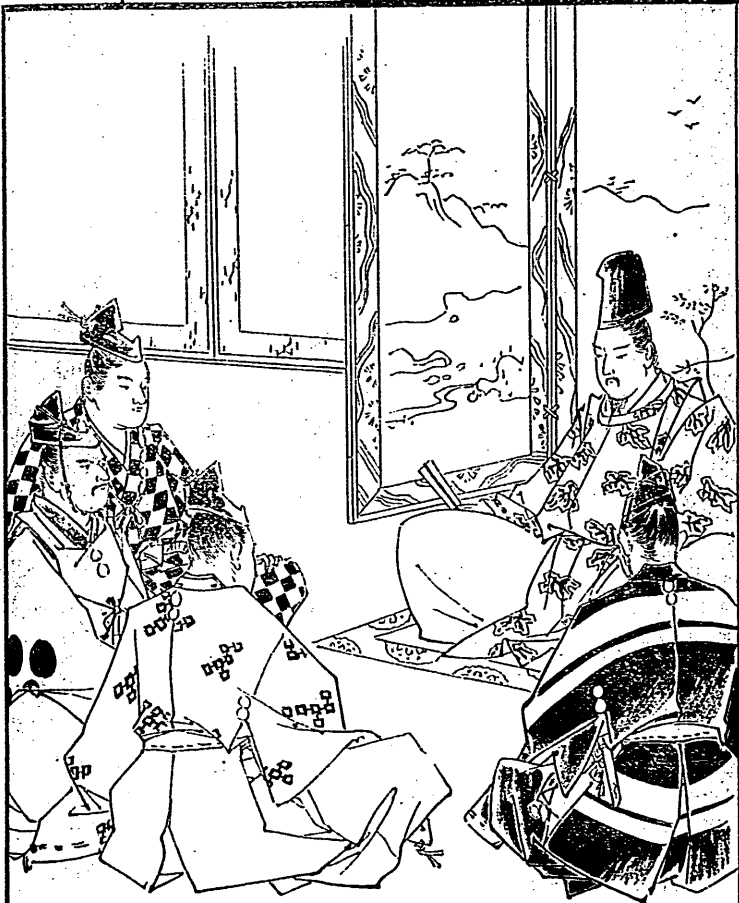
小川いたんざん 八十一だ



小川たいざんは七つになる  
ころ、ゆきのふる日もいと  
はずに、先生のもとへつけい  
こにまわりました。が、のちに  
は、名だかいがくしゃとなりま  
した。

國史館蔵書 卷一 尋常科 三

○ 山江大 九十いだ

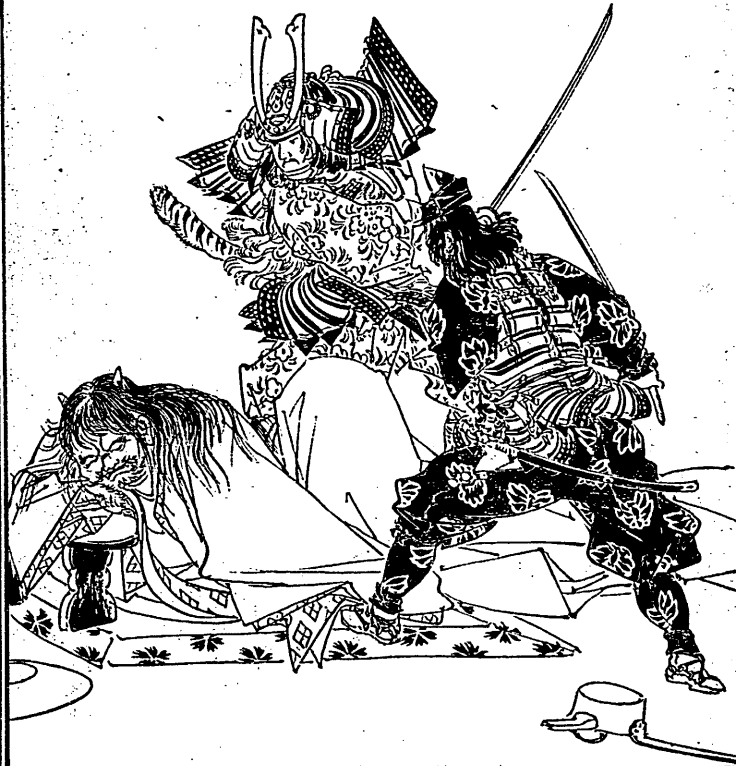


むかし、大江山におにが  
おりました。  
らいこーといふ人が、  
てんしさまから、おにたい  
ぢのおほせをうけました。

③ 山江大 十二いだ



らいこーが山に入るとき  
三人のとしよりはさけを  
くれました。また一人のお  
ひめさまはみちをし  
へました。



らいこーは、おににさけを  
 のませて、よくねたときに、  
 それを、たいちりました。  
 らいこーは、てんしさま  
 から、ごほーびを、いたさ  
 きました。

りよしととりこ木 二十二いだ



しよーぢきな木こりがとしより  
にきんのをのをもらひました。  
よくふかい木こりはいつはり  
をいって、としよりにをのを  
とられました。

シヨージキハ、一シヨ一ノタカラ。



けさなのさまお 三十二いだ



おまさは、大そーなさけ  
ぶかい子であります。  
いまおとうとの次ろー  
にすゝめてかごのとり  
をにがさせました。



一ろーは、みちをゆくとき  
はつねに、ひだりがはを、とほ  
ります。  
一ろーは、ともだちが、みちば  
たの、さくらの、えだを、をり  
かけたのを、とめました。

兵水きしまさい 五十二いだ



黄海<sup>コウカイ</sup>のいくさのとき、松島  
かんの二人の水兵は、きものを  
をぬいで、くわやくぐらの戸  
のすきまをふさいで、火の  
いるのを、とめました。

4  
357

著 權  
所 有

明治三十五年八月七日印刷  
 明治三十五年八月十日發行  
 明治三十五年十一月十九日訂正再版印刷  
 明治三十五年十一月廿三日訂正再版發行

發 行 所  
 代 表 者  
 印 刷 所

國民修身書  
 學校常用小

價 定	
卷之一	金八錢
卷之二	金九錢
卷之三	金拾錢
卷之四	金拾壹錢
全四冊	金參拾八錢

會社式 橋本忠次郎  
 會社式 國光編輯所  
 二東京目市二橋一區番築地地  
 二東京目市二橋一區番築地地  
 二東京目市二橋一區番築地地  
 二東京目市二橋一區番築地地

國民修身書  
 卷之二  
 五十一

120.1

國民修身書

尋常小  
學校用

卷三

4  
357

檢定合格本

K120.1  
.83a  
3